輸血・細胞治療部

1　構　成　員

	平成23年3月31日現在
教授	0人
准教授	0人
講師(うち病院籍)	1人　　(1人)
助教(うち病院籍)	0人　　(0人)
助手(うち病院籍)	0人　　(0人)
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	0人　　(0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	0人
合計	1人

2　教員の異動状況

中辻　理子（　講師　）（S 61.7.1 ～現職）

3　研究業績

数字は小数２位まで。

	平成22年度
(1)原著論文数(うち邦文のもの)	2編　　(0編)
そのインパクトファクターの合計	不明
(2)論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3)総説数(うち邦文のもの)	0編　　(0編)
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4)著書数(うち邦文のもの)	0編　　(0編)
(5)症例報告数(うち邦文のもの)	0編　　(0編)
そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A.　筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Nakatsuji T. Four kinds of hypothyroidism and the cancers of breast and lung found in cases of Japanese rheumatoid arthritis (RA), arthritis deformans, or bone fracture.

Comp Clin Pathol 19:449-457, 2010

2. Nakatsuji T. Immune tolerance induced by the inhibition of CD18 alone or both signal transducer and activator of transcription 3 (Stat3) and islet/duodenum homeobox-1 at the time of rat bone marrow (BM) transplantation in which thymus T lymphopoiesis occurred post-transplantation. Arch Hellen Med 27:529-538, 2010

インパクトファクターの小計　　［　不明　］

4　特許等の出願状況

	平成22年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5　医学研究費取得状況

	平成22年度
(1)文部科学省科学研究費	0件　　(0万円)
(2)厚生科学研究費	0件　　(0万円)
(3)他政府機関による研究助成	0件　　(0万円)
(4)財団助成金	0件　　(0万円)
(5)受託研究または共同研究	0件　　(0万円)
(6)奨学寄附金その他（民間より）	0件　　(0万円)

7　学会活動

	国際学会	国内学会
(1)特別講演･招待講演回数	0件	0件
(2)シンポジウム発表数	0件	0件
(3)学会座長回数	0件	0件
(4)学会開催回数	0件	0件
(5)学会役員等回数	0件	1件
(6)一般演題発表数	0件	

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

日本輸血・細胞治療学会　評議員

8　学術雑誌の編集への貢献

	国　内	外　国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9　共同研究の実施状況

	平成22年度

(1)国際共同研究	0件
(2)国内共同研究	0件
(3)学内共同研究	0件

10　産学共同研究

	平成22年度
産学共同研究	0件

12　研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 手術施行整形外科患者 875 人を対象にして、病態調査をした。84 人（9.6％）は関節リウマチ患者の関節変形による手術であった。甲状腺機能低下症による骨障害について、57 人（6.5％）で甲状腺機能検査が行なわれ、内 12 人 (自己免疫性 4 人、下垂体機能低下症 2 人、乳頭甲状腺癌 4 人、イスリノーマ併発 2 人）で甲状腺機能低下症の診断が確定していた。乳癌 4 人、肺癌 3 人、 乳頭甲状腺癌 2 人の骨転移の患者で epidermal growth factor receptor (EGFR) 遺伝子変異による癌が疑われた。内 6 人では骨転移病変は骨嚢胞形成を示したが、他の 3 人ではゲフェチニブに感受性のあると思われる腫瘍形成がみられた。癌骨転移後の経過は一般に予後不良であるが、転移骨後、悪性度が低下する症例もあり、転移骨病巣に対する、骨折の補足療法と腫瘍掻爬の重要性が示された。

2. ラット〔DAドナー，F_1（DA×Lewis）ホスト〕を使用した骨髄移植実験において、CD18 抗体の投与、または Stat3 と IDX-1 抗体の併用投与により、免疫耐性の導引に成功した。免疫耐性移植ラットでは、胸腺Ｔリンパ球の増殖がみられた。

15　新聞，雑誌等による報道

1. 国外ジャーナルにて、論文形式にて発表した。

Project to Promote Standardized Healthcare Information Exchange, Methods Inform Med, 50: 131-139, 2011.【医療情報学】[1.69]

2. Tani S, Higuchi S, Fujimoto G, Nakaya J, *Kimura M:More Powerful Search Engine Invalidates Anonymity Guidelines for Case Reports, Health Informatics Research, 17(1):87-88, 2011.【医療情報学】[0]

インパクトファクターの小計　　［　1.69　］

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 木村通男：医療情報の過去・現在・未来―Data, Information, Intelligence 第 1 回過去編 第 30 回医療情報学連合大会 , 医療情報学 , 第 30 回医療情報学連合大会論文集 30-Suppl, 4-9, 2010.
2. 木村通男，篠田英範 , 吉村仁 , 安藤裕 , 野口貴史 : 標準化の動向 , 第 30 回医療情報学連合大会 , 医療情報学 , 第 30 回医療情報学連合大会論文集 30-Suppl, 92, 2010.
3. 木村通男，阿曽沼元博 , 小林利彦 , 服部達明 : 電子カルテの再評価 −「医療情報学 20 年の宿題報告」から 10 年経って , 第 30 回医療情報学連合大会 , 医療情報学 , 第 30 回医療情報学連合
大会論文集 30-Suppl, 88-91, 2010.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 金子裕太郎，高柳卓矢，木村通男，渡辺浩 : 臨床検索システム”D☆D”を用いた新規採用薬投与前後の検査値についての調査，第 30 回医療情報学連合大会 , 医療情報学 , 第 30 回医療情報学連合大会論文集 30-Suppl, 293-294, 2010.
2. 小林利彦，木村通男：DPC システムを用いた医療の質評価の試み，第 30 回医療情報学連合 大会，医療情報学，第 30 回医療情報学連合大会論文集 30-Suppl, 937-940, 2010.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 城崎俊典 , 鈴木智幸 , 城内優 , 木村通男：静岡県版電子カルテシステム・電子紹介状 CD の 構築と現状について（現場の立場から）第 30 回医療情報学連合大会 , 医療情報学 , 第 30 回医療情報学連合大会論文集 30-Suppl, 28, 2010.
2. 篠崎和美 , 永田啓 , 奥田保男 , 竹花一哉 , 平井正明 , 横井英人 , 天野敦之 , 中島隆：IHE で解決できるか、自科検査をもつ診療科の悩み，第 30 回医療情報学連合大会，医療情報学，第 30 回医療情報学連合大会論文集 30-Suppl, 117-118, 2010.
3. 渡辺浩，木村友美，堀雄史，川上純一，木村通男：病院情報システムを基盤とする臨床研究情報検索システム D☆D の概要と利用事例 , 薬剤疫学 15(2): 97-106, 2010.

(3) 総　　説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 木村通男：施設間連携 : : 1）可搬媒体，2）電子紹介状，MOOK 医療科学 No3: PACS の構築と運用のすべて 96-101, 2010
2. 木村通男：厚生労働省標準的診療情報交換推進事業：SS-MIX と，その成果物を利用した臨床データ二次利用，医薬ジャーナル 46(8):95-103, 2010.
3. 木村通男:患者に渡す画像 CD に関する話題～現状、問題点、リスク、厚生労働省標準規格化 , 映像情報 Medical 42(9): 818-823, 2010.
4. 木村通男：医療の IT 化の明暗，日本病院会雑誌 57(4) :12(376)-33(397), 2010.
5. 木村通男：日本の一般生活者における医療情報の扱いに関する意識調査，月刊新医療 37(5): 165-171, 2010.
6. 木村通男：病院情報システム、電子カルテとは？　－日本と海外の現状－，日本 QA 研究会会報　No.39: 92-101, 2010.
7. 木村通男：医療情報システム・電子カルテからデータは出るか？，日本 QA 研究会会報 No.39:122-142, 2010.
8. 木村通男：巻頭言　市民も”無駄”をなくす IT 化に期待。標準規格準拠とセキュアなレセ用ネット通信の利用を意識して欲しい。月刊新医療別冊 診療所の IT 化ガイド 2011, 6-7, 2010.
9. 木村通男，土屋文人，小林利彦 :IT と現代の医療―今なぜ必要か―医療を測る物差し、医療情報を提供するために，Vita27(2):3-22, 2010.

(4) 著　　書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 木村通男（編集）：電子カルテ・医療情報システム部品集 2011, ㈱インナービジョン , 2010.

4　特許等の出願状況

	平成22年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5　医学研究費取得状況

	平成22年度
(1)文部科学省科学研究費	0件　（　0万円）
(2)厚生科学研究費	4件　（1,620万円）
(3)他政府機関による研究助成	0件　（　0万円）
(4)財団助成金	0件　（　0万円）
(5)受託研究または共同研究	2件　（ 380万円）
(6)奨学寄附金その他（民間より）	1件　（ 250万円）

(2) 厚生科学研究費

木村通男（代表者）地域医療基盤開発推進研究事業
診療録等標準形式情報を活用した各種文書の作成・情報共有に関する研究
（H21- 医療 - 指定 -012）980 万円（継続）
木村通男（分担者）地域医療基盤開発推進研究事業
日本版 EHR を目指した地域連携電子化クリティカルパスにおける共通形式と疾患別項目の標準化に向けた研究（新規）
（H22- 医療 - 一般 -008）200 万円（代表者：田中博（東京医科歯科大学））
木村通男（分担者）地域医療基盤開発推進研究事業
医療現場にとって必要な医療情報標準化の整備と利活用に関する研究（新規）（H22- 医療－一般 -029）240 万円（代表者：大江　和彦（東京大学））
木村通男（代表者）長寿医療研究委託事業
老年疾患コホート研究を含む高齢者医療（医療技術、チーム医療等を含む。）の標準化、治験データベースの検討　（継続）（21- 指 -1）　200 万円
（代表者：細井　孝之　（国立長寿医療研究センター））

（6）受託研究または共同研究

木村通男　標準化規格準拠の電子的医療情報データの利活用に関する研究
日本電気株式会社　300 万円（継続　～ 2014.3.31）
木村通男　SS-MIX 標準化ストレージを利用した医薬品の安全性に関する試行調査
株式会社 SBS 情報システム 80 万円（2011.4.1 ～ 2012.3.31）

7　学会活動

	国際学会	国内学会
(1)特別講演･招待講演回数	2件	7件
(2)シンポジウム発表数	2件	4件
(3)学会座長回数	3件	4件
(4)学会開催回数	2件	0件
(5)学会役員等回数	2件	6件
(6)一般演題発表数	1件	

（1）国際学会等開催・参加

1）国際学会・会議等の開催

Kimura M.: HIMSS AsiaPac 2010, Daegu, Korea, October 26-29, 2010, Member of Organising Committee, Chair of e-Health & EHR Interoperability.

Kimura M.: CJKMI2010 (The 12th Chaina-Japan-Korea Medical Informatics Conference 2010), Hamamatsu, Japan, November 19, 2010, Editorial Board.

2）国際学会・会議等における基調講演・招待講演

Kimura M.: Health Innovations in Japanese Hospitals, Future Health Forum 2010, June 10, 2010,

Singapore.（招待講演）

Kimura M.: Cabinet roadmap of health IT, with Ministry of Health designation of standards to be used in Japan, Joint Conference on Medical Informatics in Taiwan 2010, September 25, 2010, Taipei, Taiwan（招待講演）

3）国際学会・会議等でのシンポジウム発表

Kimura M. : linical Information Retrieval from CPOE, on the basis of Ministry Project SS-MIX: Standardized Structure Medical Information Exchange, The 16th Annual Meeting of Japanese Society for Pharmacoepidemiology and The 5th Asian Conference on Pharmacoepidemiology Joint Meeting, October 30, 2010, Tokyo, Japan.

Kimura M.: Survey for Asia-Pacific Countries/Regions; "What are the Medical Records for?" MEDINFO 2010, September 13, 2010, Cape Town, South Africa.

4）国際学会・会議等での座長

Kimura M.: Symposium of Toward a Global Dimension in Grid Computing for Biomedical Research, September 9, 2010, Cape Town, South Africa.

Kimura M.: The 16th Annual Meeting of Japanese Society for Pharmacoepidemiology and The 5th Asian Conference on Pharmacoepidemology Joint Meeting, October 30, 2010, Tokyo, Japan.

Kimura M.: HIMSS AsiaPac, October 26-29, 2010, Daegu, Korea

5）一般発表

口頭発表

Kimura M, Endo A.: MIHARI Project – PMDA's Pharmacovigillance project with information out of Japan's HIS, CDISC Interchange Japan 2010, July 21, 2010, Tokyo, Japan.

(2) 国内学会の開催・参加

2）学会における特別講演・招待講演

木村通男：施設間診療情報連携の標準化　－厚生労働省標準規格－, 平成 22 年度日本遠隔医療学会学術大会 , 9 月 26 日 , 2010, 三島市（特別講演）

木村通男：日本の医療・病院システムにおける現状と展望 , ガーソン・レーマングループ＆ブルームパークイベントディスカッション　11 月 16 日 , 2010, 東京都（招待講演）

木村通男：CD による医療情報連携のキーポイント , 第 24 回 IHE ワークショップ in 神戸 , 1 月 15 日 , 2011, 神戸市（招待講演）

木村通男：可搬型媒体（CD-R）を用いた画像情報連携の現状と問題解決を考察する , 日本医療情報学会ワークショップ「可搬型媒体を用いた画像情報連携」, 1 月 29 日 , 2011, 東京都（特別講演）

木村通男：医療情報の標準化とシステム運用について・静岡県版電子カルテ（SS-MIX）・放射線領域における情報管理 , 第 8 回静岡県東部放射線マネジメントセミナー , 2 月 6 日 ,

2011, 沼津市（特別講演）

木村通男：医療情報の歴史とこれから目指すべきもの , NEC 医療セミナー 2011, 2 月 25 日 , 2011, 東京都（特別講演）

木村通男：臨床情報検索システムから考えるパーソナルヘルスレコード , 第 2 回アカデミッククラウド講演会 , 3 月 16 日 , 2011, 名古屋市（特別講演）

3）シンポジウム発表

木村通男：地域医療連携の問題点 , 第 66 回日本放射線技術学会総会学術大会　シンポジウム「フィルムレス時代の光と影」, 4 月 10 日 , 2010, 横浜市

木村通男：標準化と運用の現状 最新版のワープロ文書を相手の都合を聞かずに送っていませんか？ , 第 14 回日本医療情報学会春季学術集会 (JAMI シンポジウム 2010), プログラム抄録集 , 54, 5 月 28 日 , 2010, 高松市

木村通男：医療情報の扱いについての市民意識調査 , 第 14 回日本医療情報学会春季学術集会 (JAMI シンポジウム 2010), プログラム抄録集 , 46,　5 月 28 日 , 2010, 高松市

木村通男：電子的な診療データ連携における診療の在り方を考える－他施設からの診療データを責任をもって診療に利用するために , 日本医療情報学会公開連続シンポジウム , 2 月 10 日 , 2011, 東京都

4）座長をした学会名

木村通男：第 14 回日本医療情報学会春季学術大会（JAMI シンポジウム 2010）5 月 28 日～ 29 日 , 2010. 高松市 .

木村通男：第 30 回医療情報学連合大会（第 11 回医療情報学会学術大会）, 11 月 18 日～ 21 日, 2010.　浜松市 .

谷重喜：第 30 回医療情報学連合大会（第 11 回医療情報学会学術大会）, 11 月 22 日 , 2010. 浜松市 .

木村通男：平成 22 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議, 2 月 3 日～ 4 日, 2011. 筑波市 .

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

Kimura M.: Board, International Association for Medical Informatics

Kimura M.: President , Asia Pacific Association of Medical Informatics

木村通男　日本医療情報学会　会長

谷　重喜　日本医療情報学会　評議員

木村通男　日本医療情報学会中部支部会　世話人

木村通男　日本医学放射線学会　電子情報委員会委員

木村通男　日本 IHE 協会　副理事長、運営委員会 委員 , 国際委員会　委員長

木村通男　日本 HL7 協会　会長 , 技術委員長

8　学術雑誌の編集への貢献

	国　内	外　国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	4件

（2）外国の学術雑誌の編集

Methods of Information in Medicine, Schattauer, Germany, Editorial Board, PubMed/MEDLINE 登録あり , インパクトファクター : 1.69

International Journal of medical Informatics, Elsevier, Ireland, Editorial Board, PubMed/MEDLINE 登録あり , インパクトファクター : 3.12

Journal of Biomedical Informatics, Academic Press Inc. Elsevier Science, USA, Editorial Board, PubMed/MEDLINE 登録あり , インパクトファクター :2.43

Healthcare Information Research, The Korean Society of Medical Informatics, Korea, Editorial Board, PubMed/MEDLINE 登録なし

（3）国内外の英文雑誌のレフリー

6 回 : Methods of Information in Medicine（ドイツ）

2 回 : International Journal of Medical Informatics（アイルランド）

9　共同研究の実施状況

	平成22年度
(1)国際共同研究	0件
(2)国内共同研究	0件
(3)学内共同研究	0件

10　産学共同研究

	平成22年度
産学共同研究	1件

1. 木村通男　標準化規格準拠の電子的医療情報データの利活用に関する研究　日本電気株式会社

12　研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 厚生労働省標準的医療情報交換推進事業 SS-MIX の指導

　静岡県版電子カルテシステム開発事業（http://www.mi.hama-med.ac.jp/emr/）に技術検討委員長として参画し、静岡県内において、病診、病病連携の推進、患者の希望に基づくデータの提供、後述のオブジェクト指向データベース（本講座にて開発）による臨床情報についての柔軟な検索、一部の情報種において、ペーパーレス電子カルテの実現を可能とした。

　独立行政法人　医薬品・医療機器総合機構（PMDA）の電子診療情報等の安全対策への活用に関する検討会に参画しているが、その先行事業として、8 つの副作用に関する検索プロトコールについて、本院をはじめ、静岡県内 5 病院で検索し報告した。

これは、平成 23 年度厚生労働省医薬食品局の医療情報データベース基盤整備事業の先行事業であり、実際、その後、全国 10 協力医療機関のひとつに本院が選定された。
（木村通男、谷重喜）

13　この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

1. 臨床データベースの薬剤安全への応用

病院情報システムで、医師が処方オーダを行う際、それまで投与されていた薬剤を止めた際、その理由を簡単に聞くシステムを開発した。これにより、これまでに開発済みの SS-MIX 標準化ストレージにある処方歴、検査結果などを自動で取り込み、簡単に副作用報告書を書くことが可能となった。

14　研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. 臨床データベースの薬剤安全への応用

先述（12）の臨床データベースシステムを用いた独立行政法人　医薬品医療機器総合機構（PMDA）のプロジェクトは、平成 25 年度までの 5 年計画の継続研究となっている。

また、（13）での記述の病院情報システムから簡単に副作用報告書を書くシステムは、来年度、CDISC Interchange（国際会議）での発表を要請されている。